

第四次産業革命とCVCの重要性

企業のコンピタンスと産業フロンティアの
関わりをリ・デザインする

2017年11月20日

イノベーション・エンジン株式会社

代表取締役社長 佐野 睦典



- 設立年月日： 2001年1月31日
- 目的： 技術を活用した産業ニューフロンティアの創出を促す「エンジン」の役割を果たす。
- 代表取締役 佐野 睦典
- 事業内容：
 - ・技術の事業化に投資をする「ベンチャー企業向けファンド」を組成している。これまでのファンド等の運用実績は約200億円。
 - ・未上場会社に加え新興上場企業に対する投資事業も行う。
- 資本金： 1億円
- 所在地： 〒105-0014 東京都港区芝2-3-12 芝アビタシオンビル3F
- 電話／FAX： TEL 03-5730-6721 / FAX 03-5730-6722
- URL： <http://www.innovation-engine.co.jp/>

技術系ベンチャーキャピタルのパイオニア

2001年創業以来、半導体、フォトニクス、環境、ネット技術、バイオ創薬など、約90社に投資を実行

実現する 社会イメージ	より人間らしさを実現する ロボットとの共生生活	安全・快適・楽しさ・省資源の 自動車活用社会	健康・活力・やすらぎと 省資源を実現する衣食住生活
	いつでもどこでも 便利・創造・感動の情報社会	高技術による気配りで 長寿・健康社会	持続的発展可能な 環境・エネルギー社会
製品	ユビキタスIT	医療・健康	クリーンエネルギー
デバイス	半導体	光デバイス	MEMS/NEMS
材料	材 料		
基盤技術	超精密計測	超微細加工	ナノデザイン

大震災(2011年)後の6年間で16社に投資(4,000万円以上の投資に限る)。
既に、8社のIPO実現、3社が株価上げて売却済。更に2社がIPOオンスケジュール。

No.	社名	業種	出資年月	IPO・回収年月	IPO・回収期間	回収倍率	回収方法
1	(株)キャピタル・アセット・プランニング	フィンテック	11/8	16/10	5年2ヶ月	5.2倍	IPO
2	Delta-Fly Pharma(株)	ガン創薬	11/12	18/9(予)	保有中	—	IPO(予)
3	エンカレッジ・テクノロジー(株)	情報セキュリティ	12/5	13/12	1年7ヶ月	8.4倍	IPO
4	(株)アイネットサポート	技術系コールセンター	12/7	16/7	4年	1.2倍	売却
5	(株)メドレックス	ドラッグデリバリー	12/8	13/2	6ヶ月	3.2倍	IPO
6	インヴェンティット(株)	遠隔監視システム	12/10	17/4	4年6ヶ月	0.0倍	売却
7	SCIVAX(株)	ナノインプリント	12/11	16/9	3年10ヵ月	1.3倍	売却
8	(株)リボミック	遺伝子創薬	12/11	14/9	1年10ヵ月	12.1倍	IPO
9	(株)アルフレッドコア	動画配信システム	12/12	14/11	1年11ヶ月	0.1倍	清算
10	(株)ミュートス	医療機関向けSNS	13/1	17/6	4年5ヶ月	1.1倍	売却
11	オンコリスバイオファーマ(株)	バイオ創薬	13/7	13/12	5ヶ月	1.1倍	IPO
12	イーレックス(株)	新電力	13/12	14/12	1年	1.9倍	IPO
13	(株)グリーンペプタイド	ガン免疫治療	14/7	15/10	1年3ヶ月	11.4倍	IPO
14	北京視信源(中国)	CMOSセンサー	15/4	15/8	4ヶ月	交渉中	IPO
15	クラー口(株)	デジタル病理診断	16/6	—	保有中	—	IPO(予)
16	ORTHOREBIRTH(株)	人工骨	16/10	19/8(予)	保有中	—	IPO(予)

注) ■ IPOを実現した企業。 ■ 株価を上げて売却した企業。2016年12月までの投資分。

成功投資経験豊かなキャピタリスト陣

メンバー合計123年の投資経験と合計53社のIPO実績

メンバー	経歴	得意分野	投資経験	IPO社数
佐野 睦典	野村証券⇨野村総研⇨JAFECO	技術全般	22年	9社
松本 尚	あおぞら銀⇨同VC子会社常務	ヘルスケア・医薬	17年	15社
太田 一彦	EPSON⇨野村総研⇨JAFECO	技術評価	15年	0社
千葉 寧	JAFECO⇨人材ベンチャー社長	製造業・IT	16年	10社
雨宮 秀仁	JAFECO⇨上場WEB企業部長	ネット・IT	7年	5社
中井 純	ソニー⇨半導体ベンチャー社長	AI・通信	1年	0社
新庄 義和	JAFECO⇨財務コンサル	製造業・ロボット	20年	5社
荒木 浩明	JAFECO⇨再生コンサル社長	製造業・サービス	17年	4社
石井 浩之	野村証券⇨SBI中国代表	中国	8年	5社
合計			123年	53社

現在運営中の投資ファンド等

ベンチャーファンド

- ◆ テクノロジー系
ゼネラルファンド 3本
合計 70億円
- ◆ ターゲットファンド 4本
合計 10億円

投資助言業

- ◆ 大手電子商社CVC
助言額 50億円

「新しい事業機会」の相次ぐ出現

—25年振りに日本が産業創出をリードする時代に—

～1990年 :日本の産業が世界をリードした時代

90～2015年 :日本は、攻めず・守れずゼロ成長時代

- ・ネットワーク・ソフトウェアなどの成長産業はアメリカがリード役となった
- ・日本が得意とするアセンブリー型製造業は韓国・台湾・中国が奪っていった
- ・日本に残る優位産業は、部品・材料産業のみに

2015年～ :日本の強みが生きる二つの事業機会
が出現し、日本の成長復活へ

2015年～日本優位の二大潮流が出現

健康長寿革命

(長寿世界No.1“日本”のノウハウ
を世界に展開する)

第四次産業革命

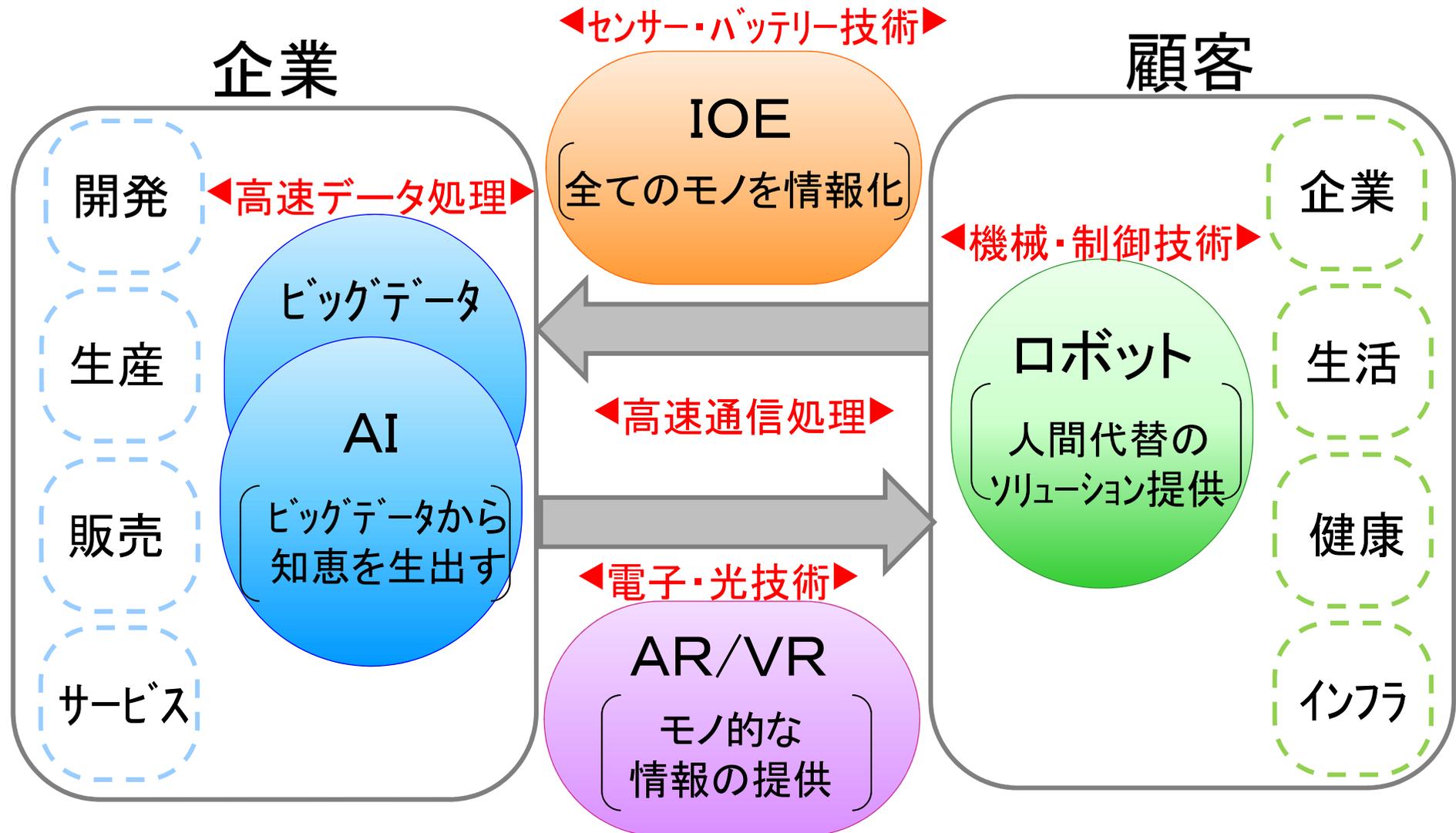
(「全てのモノの情報化」と「進化する知恵」の結合により
全産業の創造化と効率化が進む)



第四次産業革命のインパクト

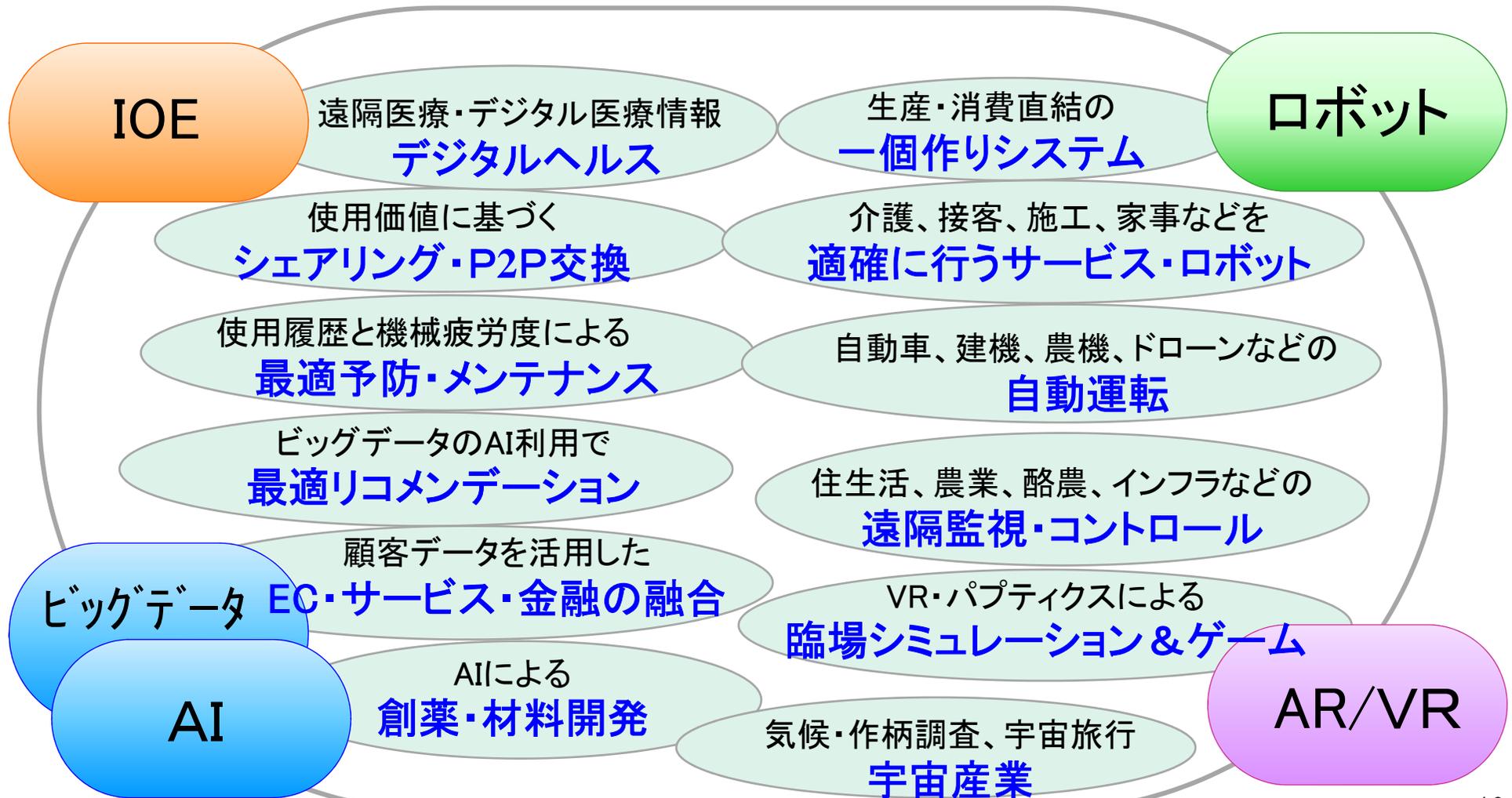
第四次産業革命をリードする5つのエンジン

全てのモノが情報化、スマートに経済・社会課題を解決



(◀5つのエンジンを支える日本の得意技術▶)

兆円クラスの新産業が相次ぎ出現



第四次産業革命に関わるIEの投資先企業

IOE

- ・**ネッチ**(ネット活用のクレーンゲーム)
- ・**PicoCELA**(多段ホップ無線通信)
- ・**クラーロ**(遠隔デジタル病理診断)
- ・**BONX**(ヒアラブル・デバイスでグループコミュニケーションを実現)

ロボティクス

- ・**ZMP**(乗用車や物流の自動運転およびドローンによる検査サービス)
- ・**テムザック**(医療用・介護用・警備用などのサービスロボット)

AI

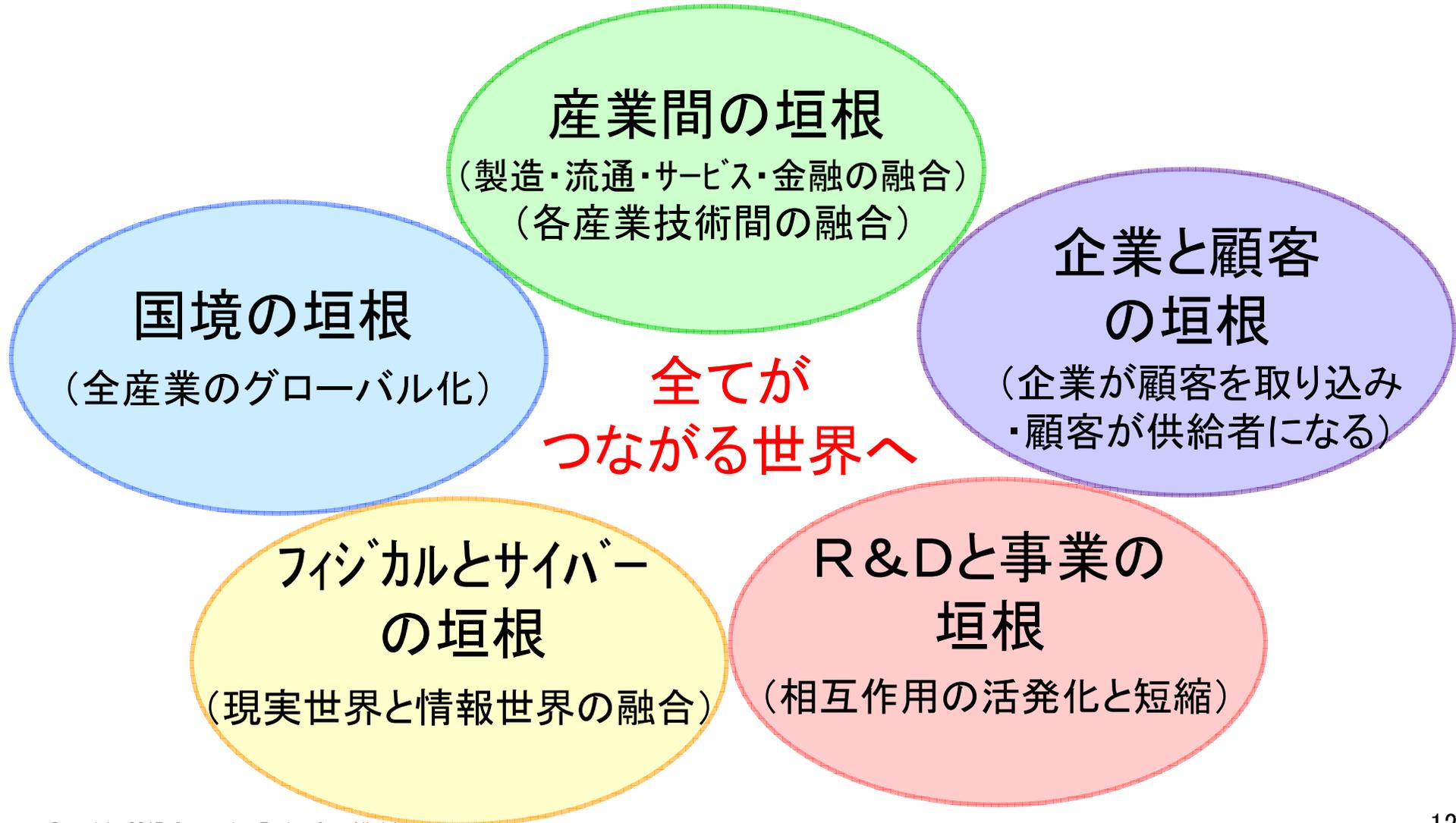
- ・**SKYDISC**(センサデータのAI解析と監視システム)
- ・**ロゼッタ**(AI翻訳)
- ・**インスペック**(AIによる半導体・有機ELの画像診断)

シェアリング フィンテック

- ・**CROCO**(クラウド・ソーシングで40万人のライターを擁する)
- ・**ママスクエア**(ワークスペースとキッズスペースの二体化)
- ・**TRANZAX**(B2B向けフィンテック)

第四次産業革命のインパクト

— 5つの垣根がなくなる —



第四次産業革命の大企業への影響

チャンス

- ① 日本企業が得意な電子・光・機械・材料技術などの重要度が高く、グローバルな優位性を高める絶好のチャンスである
- ② 第四次産業革命により「新産業・新事業」が相次いで生まれるため、ビジネスチャンスと捉えることで、成長性を高めることができる。

チャレンジ

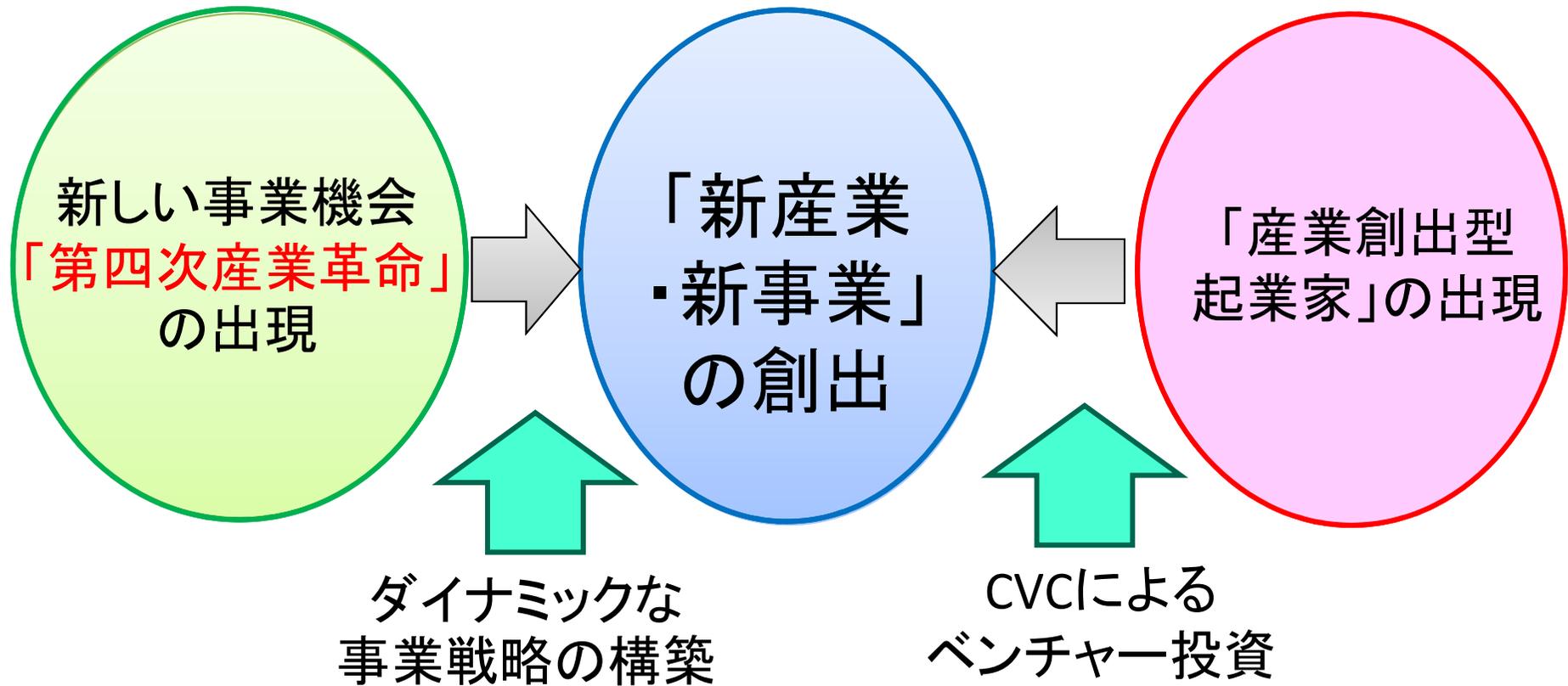
- ① 第四次産業革命により生まれる「新産業・新事業」は、事業デザインが重要で、既存の大企業の事業戦略や事業資源で対応できないことが多い。
- ② 第四次産業革命は急速に展開していくため、スピード、コミットメントが必要であり、大企業の組織原理とバッティングすることが多い。

チャンスを取込み、チャレンジを克服する



大企業のCVC戦略

新産業・新事業の創出のためのCVC



大企業のプラットフォーム・ブランド力・財務力・人材力



大企業のCVC戦略

ベンチャー企業への投資に向けて

- ◇大企業は、第四次産業革命に向けたダイナミックな事業戦略を構築する
- ◇その事業戦略における、「新産業・新事業」展開については重点分野、展開方法、投下資金などについて明確なポリシーを打ち出す
- ◇「新産業・新事業」の創出を担う組織は、基本的に経営直轄で推進する
- ◇一方、「新産業・新事業」展開の重点分野に関わる大企業内の事業部や資源、人材と積極的にアクセスし、「新産業・新事業」活動への協力を得る。
- ◇第四次産業革命は急展開するため、ベンチャー企業の発掘ソースを社内外に広く構築し、大量の案件と接触して目利き力を高める
- ◇投資決定においては、既存の事業部との利害関係はあっても、大企業全体の戦略に基づき、ベンチャー企業の客観的な企業評価を行う。



大企業のCVC戦略

ベンチャー企業との共創関係

- ◇ベンチャー企業への投資後の関係においては、「ベンチャー企業」の有する事業ポテンシャルを最大限に伸ばすことを最優先で考える
- ◇特に、「ベンチャー」の強みである、①事業デザイン力、②コア技術力、③事業コミットメント・推進力、④当該分野での人材ネットワーク、を伸ばすため、基本的に、自立的な経営展開を重視する
- ◇「大企業」は、その強味である①事業プラットフォーム（開発、生産、販売、サービス体制）、②ブランド力、③財務力、④人材資源、などを積極的に提供・支援する
- ◇「大企業」は、最初から過半数あるいは影響ある株式持ち分を必ずしも求めること必要はない。柔軟に大企業にとっての戦略的重要性とベンチャーとのシナジーに応じて、株式持分や人材比率を決めていく。

ベンチャーキャピタルの活用の意義

- ◇米国では大企業のCVCが成熟しており、自社運営するケースは多い。VC業界が成熟化し、VCとCVCの間でのキャピタリストの移動も頻繁にある
- ◇日本では、VC業界が米国に比べて小さく、キャピタリストの数も限られる。また、大企業のCVCも立ちあがって間もないところが多い
- ◇イノベーション・エンジンは、独立系の技術系ベンチャーキャピタルのパイオニアであり、投資経験と事業歴の豊かなキャピタリストが集まっている
- ◇その点で、大企業がCVCを実施するに当たって直面する以下のような課題に対して、的確に対応ができる。
 - ・案件発掘ソース
 - ・ベンチャー企業の評価
 - ・ベンチャー企業の経営体制の確立と自立化サポート
 - ・大企業とベンチャー企業の間立った利害調整
 - ・大企業の人事異動による継続性の課題への対応 など

ご清聴ありがとうございました！

イノベーション・エンジン株式会社
東京都港区芝2-3-12芝アビタシオンビル3F
TEL: 03-5730-6721
Mail: sano@innovation-engine.co.jp
chiba@innovation-engine.co.jp
URL: <http://www.innovation-engine.co.jp/>